

ロータリー米山記念奨学委員会

ロータリー米山記念奨学委員会 統轄委員長 中 畠 清
(鶴ヶ島 RC)



米山記念事業とは

米山奨学記念奨学事業は、日本のロータリーが作った独自の事業で、34地区、全地区の合同事業です。1952年に事業が始まって以来、日本で学ぶ、外国人留学生を支援しています。「公益財団法人ロータリー米山記念奨学会」というのは、この事業をおこなうために、日本のロータリーが共同で運営する財団です。

この奨学金の最大の特徴は「世話クラブ・カンセラー制度」です。

銀行振り込みが多い他の奨学金と違って、米山記念奨学生は、ロータリー活動に参加してもらい、交流することを大切にしています。奨学生は最低月一回は世話クラブの例会に出席しなければなりません。

1946年日本のロータリーの父米山梅吉が亡くなりました。「梅吉翁の功績を忍ぶことができるような、事業をやろう」という声が大きくなりました。

当時の日本はまだ食料事情もよくなくて、当時弁当持参で熱心に議論をしていたそうです。1952年東京ロータリークラブの吉沢会長が「米山基金」の構想を発表しました。「アジアから優秀な学生を招いて学費を援助し、二度と戦争の悲劇を繰り返さないために「平和日本」を肌で感じてもらいたい。というものでした。こうして、東京ロータリークラブが始めた「米山基金は」わずか5年での本の全ロータリークラブの最大の奨学事業となりました。

ロータリーアンの力強い継続支援のおかげで2017年には財団創立50周年を迎え、2023年6月現在累計学生数は23,509人、出身国は131の国と地域に及びます。